まえがき ―― 1
第一章　なぜニューギニア戦を取り上げるのか ―― 15
第二章　なぜニューギニア戦は起こったのか ―― 23
（一）日本軍の攻勢　23
（二）マッカーサー軍の反攻　40
第三章　第一期ニューギニア戦　日本軍の攻勢と豪軍主力の連合軍の反撃 ―― 53
（一）米豪連携の遮断と珊瑚海海戦　53
（二）ポートモレスビー陸路攻勢決定に至る経緯　61
（三）ミルン湾の戦い　72
（四）ポートモレスビー攻略作戦とガダルカナル島戦　81
（五）二正面戦下のポートモレスビー攻略作戦　90
（六）凄惨なブナ・バサブア戦　100

第四章　第二期ニューギニア戦　その一　日・米豪軍の激闘と日本軍の難関越え
（一）ニューギニア戦線の拡大　117
（二）再び糧食切れのワウ攻略戦　131
（三）遠ざかるニューギニア　ダンピール（ビティアズ）海峡の悲劇　140
（四）マダン・ラエ間道路建設とサラモア戦　160
（五）ラエ攻防戦　180
（六）第五一師団のサラワケット越え　191
（七）中井支隊のカイアピット進出作戦　207
（八）フィンシュハーヘン戦の開始　210
（九）フィンシュハーヘン・サテルベルグの攻防戦　235
（十）フィンシュハーヘンからシオへの道　249
（十一）机上の空論「絶対国防圏」と遅滞作戦　266
（十二）「絶対国防圏」と第二方面軍・第二軍の南方派遣　279
（十三）米軍のグンビ（サイドル）上陸と二十師団のガリ撤退　283
（十四）松本支隊の歓喜嶺をめぐる戦い　298
第五章　第二期ニューギニア戦　その二　島嶼戦と航空戦
（一）島嶼戦と三軍一体の立体戦　305
（二）陸軍航空隊の南方派遣　316
（三）島嶼戦における航空隊の役割　326

（四）島嶼戦と飛行場建設　335
（五）陸軍航空隊の展開と敗北　348

第六章　第三期ニューギニア戦　昭和十八年の空白　唯一の戦場　365
（一）戦線を離脱した連合艦隊　活動の場がない主力艦　365
（二）小型艦艇の活動　374
（三）マダン防禦作戦の破棄　387
（四）アドミラルティー諸島の失陥と三N線の崩壊　396
（五）第十八軍の新しい上部機関　411
（六）セピックを越えてウェワクへ　421

第七章　第四期ニューギニア戦　その一　第十八軍の最終的抵抗と戦線の西進　439
（一）ウェワクを拠点とするニューギニアの補給体制　439
（二）ホーランディア戦と日本軍の壊滅　450
（三）ビアク島の陥落　473
（四）米軍のヌンホル・サンサポール上陸　496
（五）アイタペ戦　第十八軍の最後の大反攻　499
（六）ニューギニア戦の勝敗確定　519

第八章　第四期ニューギニア戦　その二　豪軍の掃討戦と米軍のフィリピン進攻 —— 545
（一）豪軍の追撃と山南地区戦　545
（二）米軍のモロタイ島上陸と飛行場建設　568
（三）米軍のフィリピン進攻　579
第九章　第四期ニューギニア戦　その三　自給自足つき降伏と復員 —— 587
（一）ラバウルの自給自活　587
（二）東部ニューギニアの自活　596
（三）西部ニューギニアの自活　600
（四）カイリル・ムッシュ島の海軍部隊の自活　607
（五）収容所生活と故国帰還　612
おわりに —— 627
あとがき　632
主要参照資料一覧　634
主要関係年表　643